

本校『学園だより』の変遷と実状

第2報 保護者の受け止め方と今後の在り方

倉澤英夫*1・山田達朗*2・小澤志朗*3・曾田友紀子*4・
長坂明彦*5・芳賀武*6・大矢健一*7・松岡保正*8・
大西浩次*4・川口修一*9・三尾敦*10

A Brief History of Nagano Kosen Public Relations Newsletter,
“Gakuen Dayori”, and Its Image Today

2nd Report: Parents' Thoughts on the Newsletter, and Future Direction

Hideo KURASAWA, Tatsuro YAMADA, Shiro OZAWA, Yukiko SODA,
Akihiko NAGASAKA, Takeshi HAGA, Ken'ichi OHYA, Yasumasa MATSUOKA,
Kouji OHNISHI, Shuichi KAWAGUCHI, Atsushi MIO

キーワード: 学園だより, 広報誌, 保護者, アンケート, 展望, 学園だより編集委員会

1. まえがき

『学園だより』が作り上げているコミュニティの最も基本的な構成員は、学生、教職員、保護者である。そして『学園だより』の企画、編集には常にそれらを意識し、直接、間接学校運営、教育に貢献することを目指して行っている。

ところで、この保護者への配布は、昨年度までクラス担任から学生にそれぞれ2部ずつ渡し、その1部を学生から手渡す方法で行ってきた。これに関し最近一部委員の中から、「教室、あるいは学寮内で多くの『学園だより』が所有者不明で置かれていることなどから、かなりの割合で保護者に渡っていないことが懸念される」といった意見が聞かれた。

このことを踏まえ今年度4月から、より確実に保護者の手元に『学園だより』が届くように、直接保護者宛てに配送することにした。併せてこれを機に今年度2回目の配送の際、『学園だより』について保護者がどのように受け止めているかのアンケート調査を行った。この第2報ではその結果を中心に報告し、さらに、それらの意見を参考にして、『学園だより』の問題点、あるいは、今後どうあるべきかについての考察も行った。

2. アンケート調査の結果と分析

保護者を対象に、平成12年7月、『学園だより』に関して、16項目にわたるアンケートを実施した。その結果をとりまとめ、若干の分析を行った。

- *1 機械工学科教授
- *2 電気工学科教授
- *3 一般科教授
- *4 一般科助教授
- *5 機械工学科助教授
- *6 電子制御工学科教授
- *7 電子情報工学科講師
- *8 環境都市工学科教授
- *9 学生課長
- *10 技術室第一技術班

原稿受付 2000年10月27日

1. 学年 (学生), 2. 性別 (学生), 3. 地域 (保護者), 4. 住居 (学生) をお書きください。

回答者はクラスごとに学生名簿の偶数番号の上位15名を選出した。各学年は5クラスで75名、全学年では375名にアンケートを依頼し、260名から回答があり、回収率は69.3%となった。学年ごとの回収率を図1に示す。

回答者のうち自宅と自宅外(寮・アパート)学生の保護者が占める比率は、それぞれ56%と

44%であった。全学生における両者の比率は61%と39%なので、今回のアンケートは自宅外からの回答率がやや高めになっている。なお、1、2学年の自宅外学生は全員寮生である。また、女子学生の保護者が回答者に占める割合は16.2%で、全学生中の女子比率15.9%に一致した。以上より、アンケートの回答から、本校の全保護者が『学園だより』に対して受けとめている一般的な傾向を、推定することは可能である。

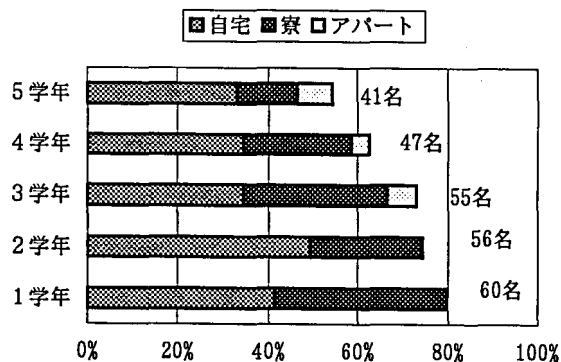


図1 アンケート回収率

5. この『学園だより』は昨年度まで年4回発行され、学生から保護者の方に渡すようになっていましたが、そのときの様子をおたずねします。(調査対象は2学年～5学年)

- ①ほぼ毎回受け取る ②大体受け取る ③あまり受け取らない ④受け取らない

受取り状況は、学生が学校からの刊行物を保護者に渡そうとする意志の強弱をあらわしている。また、『学園だより』をどの程度重視しているかのパラメータともみなせる。

図2をみると、全般的な傾向として約85%が保護者に渡しており、予想外の高率であった。

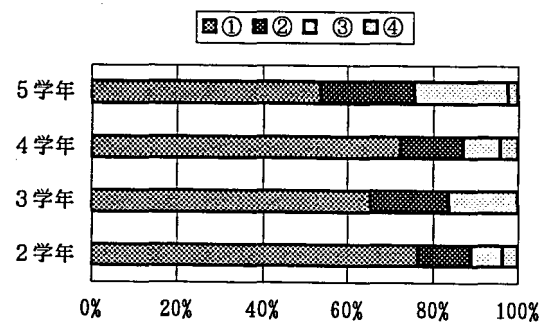


図2 『学園だより』の受取状況

注) 凡例の①, ②, ③, ④はそれぞれ回答番号に対応している。以後の図面も同様である。

概して低学年ほどよく渡している。図3も参照して、学年ごとの特長を挙げる。

2学年寮生をみると、「あまり受け取らない」、「受け取らない」を含めると、ほとんど渡していない者が4人に1人いる。2学年になり帰省しない寮生が増加したためであろう。3学年は5学年に次いで「ほぼ毎回受けとっている」が少ない。4学年は進路関連の記事に関心を持っているためか、確実に渡している学生が、自宅・自宅外とも多い。5学年になると積極的に渡している学生が少なくなり、自宅外学生では3分の1が「ほとんど渡していない」。進路も決り、帰省しない学生が多いためであろう。

つぎに、女子学生をみると、図4に示すように、男子に比べ積極的に渡しており、特に、2、3学年の保護者の8割は「ほぼ毎回受け取っている」と回答している。

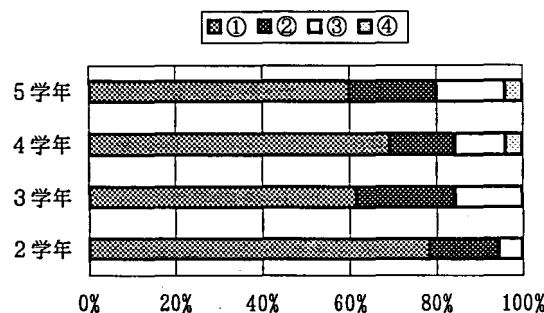


図3 『学園だより』受取状況 (a) 自宅

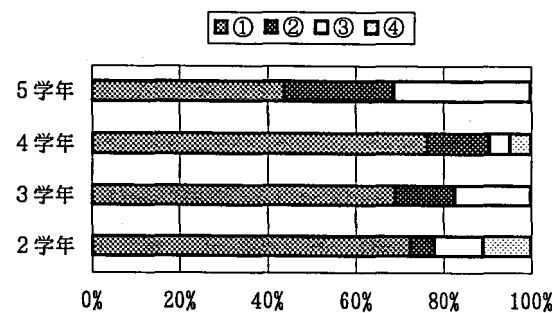


図3 『学園だより』受取状況 (b) 自宅外

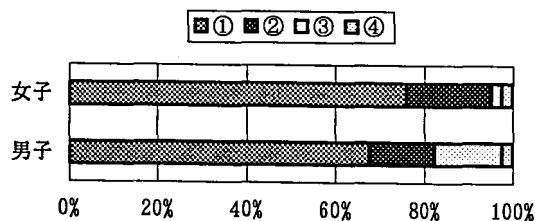


図4 『学園だより』受取状況・性別

6. 『学園だより』を保護者の方にお送りすることについて、どう思いますか。〈理由などがあれば、お書きください〉

①非常によい ②よい ③それほど必要とは思わない ④不要

全学年の平均をとると、「非常によい」38%、「よい」48%、「それほど必要とは思わない」11%、「不要」3%で、配送を評価している回答が86%を超え、高い支持を得ている。図5をみると、低学年ほど賛成が多かったが、一方、従来の手渡しに慣れている高学年では疑問視、不要の声も目立ってくる。

1～3学年では回答者のうち3割、4・5学年で4割程度が文章中で賛否の理由を記入していた。これらの記述回答をあわせて、さらに検討する。

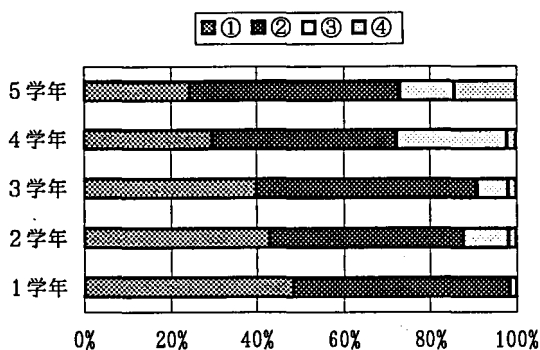


図5 『学園だより』配送の評価

1学年の保護者は、全学年のなかで突出して配送を望む声が多い。アンケートを実施した7月の時点ではまだ学校のことがよく分からず、『学園だより』を貴重な情報源とみなしているのであろう。2学年から、「それほど必要とは思わない」との意見が出始め、4・5学年になると、記述回答者の4人に1人(25%程度)が、「それほど必要とは思わない」、あるいは「不要」と答えている。これは、確実に渡していた学生が多かったためであろう。

全学年を通して配送を評価する主な理由は、「早く確実に受け取れ、読めるから」、「学校の様子を知ることができるから」という2つに集約される。

不要であるとする主な理由は「経費節約」にあるが、「学生への教育的視点からも、配送することに再考が必要。親子の対話にも利用している」という意見も幾つかあった。また、配送を「よい」とする保護者の中にも、「学生が持って帰れば、

余分なお金をかけなくてすむのに」との回答も数通あった。

住居別に賛否を示した図6(a),(b)を比べると、やはり全体では自宅外学生の保護者ほど、配送を評価する回答が多かった。また、図7より、女子学生に比べると、男子学生の保護者の方に評価する声が多い。前項で示したように、保護者に渡していた割合は、女子の方が男子より多いことが背後にある。

「配送の賛否」と「今まで手渡されていたかどうか」との間には強い相関関係がある。一方、『学園だより』に対する「関心の深さ」と「配送を評価する」ことの間には、必ずしも相関関係は存在しないようである。「持ち帰り、家庭で話題にする教育的価値」を指摘した声からは、『学園だより』が届くのを待って、読んでいる保護者の姿が浮かんでくる。

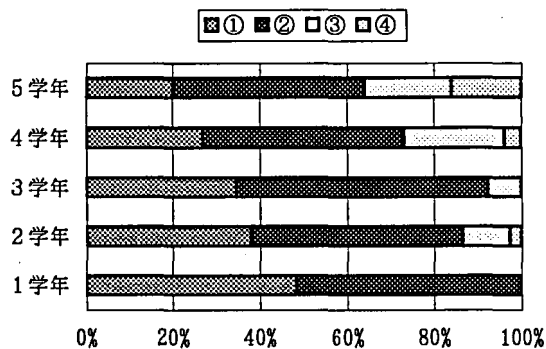


図6 『学園だより』配送の評価 (a) 自宅

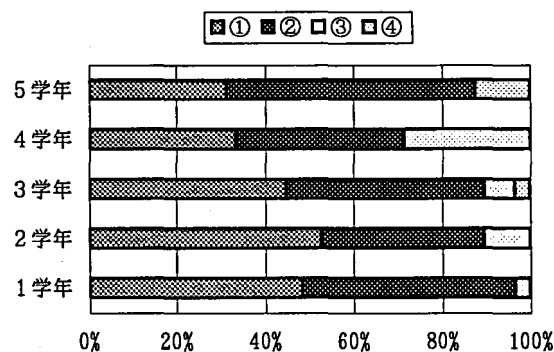


図6 『学園だより』配送の評価 (b) 自宅外

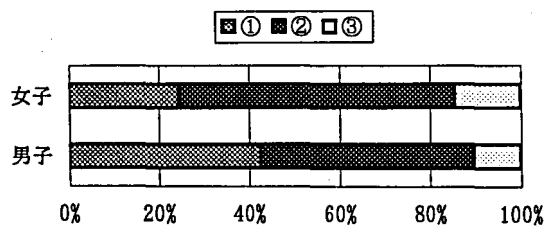


図7 『学園だより』配送の評価・性別

配送に対する回答を上記のように分析したが、全体を俯瞰すると、回答者の9割近くが配送に賛成している状況を確認できた。なお、保護者から寄せられた意見の中に、「通学生以外の保護者、あるいは希望者だけに発送」、「有料になってもよい」、「兄弟（姉妹）の2人がお世話になっているので、1部配送でよい」、「もっと安い方法で送れないか」などの提言もあった。

7. 前回、今回とお送りした『学園だより』を読んだり、見たりしたでしょうか。

- ①よく読んだ ②大体読んだ ③ほとんど読まない ④全く読まない

全学年を平均すると、「よく読んだ」が46%、「大体読んだ」が53%で、図8に示すように、ほぼ全員が読んでいる。『学園だより』に強い関心を持っていることが分かった。また、自宅外学生の保護者の方が若干よく読む傾向がある。特に、1学年では、自宅で話し合う機会が少ない寮生保護者をとりあげると、「よく読んでいる」との回答が6割にも及んだ。

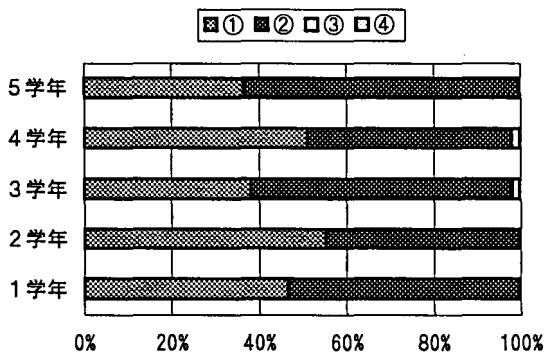


図8 『学園だより』を読んだか

8. できばえについておたずねします。(よい点、悪い点など具体的なところがあれば、お書きください)

- ①よくできている ②まあまあよくできている ③それほどよくない ④できばえが悪い

学生の住居別、性別に関係なく、図9に示したように、全学年をとおして6割以上が「よくできている」と答え、「それほどよくない」、「わるい」を選んだ回答はなかった。特に、5学年の保護者の8割近くが「よくできている」と評価しており、

入学以来18通の『学園だより』を受取ったうえでの感想として、重みがある。

具体的によい点、悪い点を記述した回答は1学年から5学年までで39件あったが、改善点を指摘した1件を除くと、全てよい点を挙げていた。企画・内容の評価としては、

- ・校内によく目が行き届いており、学校の様子がよく分かる。
- ・高専について尋ねられたときも紹介の参考になります。
- ・スポーツの記録、資格取得などの活躍もよく分かる。

に要約される意見が数多く寄せられた。

つぎに多かったのが、進路に関してで、

- ・学生や保護者が一番必要とする就職、編入学などに関し、実体験にまつわる話題が参考になる。に代表される。また、その他に、
 - ・進路、学生活動などについて、子供が話してくれないことがよく分かる。子供に対して目線を同一にして、一層深みのある会話や、親としての指示・指導ができ、大変参考になります。
- などの回答もあった。

レイアウトに関しては、「表紙も含めてカラー写真が素晴らしく、豊富に使われている」との評価が多かった。

上記の回答には、保護者の好意的な見方が出ているとも考えられるが、広報誌として高い評価を受けていることは、『学園だより』の編集方針と内容が強く支持されていることの証である。学校の日頃の教育・研究にかける熱意が誌面を通して保護者に伝わり、高専のイメージアップにつながる『学園だより』となるよう、「読んでみたくなる企画」、「読みやすいレイアウト」に腐心してきた歴代から現在に至る編集委員会の蓄積が大きい。

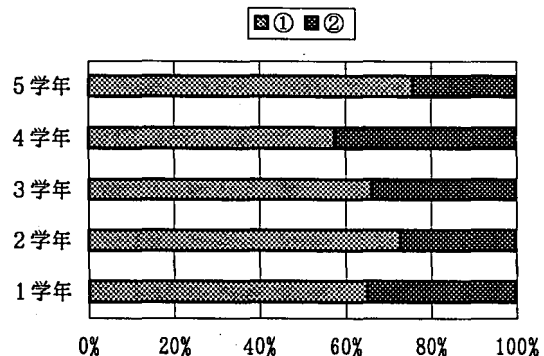


図9 『学園だより』のできばえ

しかし、「レイアウトが単調です。見せる、読ませるためには誌面にメリハリを！フォント、段組、写真の大小など、バリエーションがもっとあればと感じます」との専門家的な指摘もあった。『学園だより』は宣伝を旨とする業界紙とは異なるが、貴重な提言として今後の参考としたい。

9. この号（第104号）で特に興味があり、よかったもの2つ以内に○印をつけてください。

- ①表紙 ②進路について（特集） ③オリエンテーション（1・3学年） ④長野マラソン、ホームステイ ⑤大会結果、部同好会、学生会などの役員名簿 ⑥インターンシップ ⑦リサイクル関連 ⑧研究成果報告 ⑨お知らせ、校内短信

図10に示したように、いずれの学年でも「進路」に対する関心が突出して高い。アンケートの回答者259名のなかで219名が選択しており、85%にも達している。しかしなぜか、3学年が落ち込んでいるが、明確な原因は不明である。なお、この質問は2項目選択となっているが、3学年では、1項目しか回答しなかった場合が目立ち、延べ人数は少ない。つぎに、進路と大きく関わりをもつ「インターンシップ」に対しても関心が深く、54名が選択している。

「オリエンテーション」に関しては、該当学年の保護者が注目しており、5学年ではゼロであった。保護者が自分の子供を中心に、関連のある記事に注目するという事実を示している。

以上の3項目が、特に興味をもって読まれており、それ以外は万遍なく読んでいるようである。

10. 過去の『学園だより』の記事で、印象に残ったよいものがありましたらお書きください。

1学年6件、2学年10件、3学年13件、4学年7件、5学年6件の計42の記述回答があった。在学生の保護者に、今迄配布した『学園だより』は、それぞれの学年で2通～18通となり、第87号以後が回答の対象となる。回答を数の多い順に、4つに分類する。

(1) 進路関係
 最多の16名が挙げており、具体的な進路状況、進路が決まった5年生の声、先輩のアドバイスなどの関連記事である。第104号の特集「高専生の進路」を3名が指定した。「毎年4月に発行される『学園だより』を見て、進路について子どもと話し合いができてよかった」との回答に尽きている。

(2) 『祝学園だより第100号』
 この号を10名が選んだ。「長野高専への思い、グラビアで見る長野高専、最近の学生の動向」は盛りだくさんで面白く、見応えがあったが、代表的な意見である。第100号記念の『学園だより』は、第1報にも記述したように、文部省から広報誌のレイアウト部門で表彰を受けており、保護者にも印象が鮮明で好評であった。編集委員会としても全委員が分担し、総力を投入した号で、32頁の総カラーである。

(3) 2～3名が指摘した記事
 内容は多岐に渡っている。国際交流（第102号の留学生のお国自慢）、校長挨拶（入学式、始

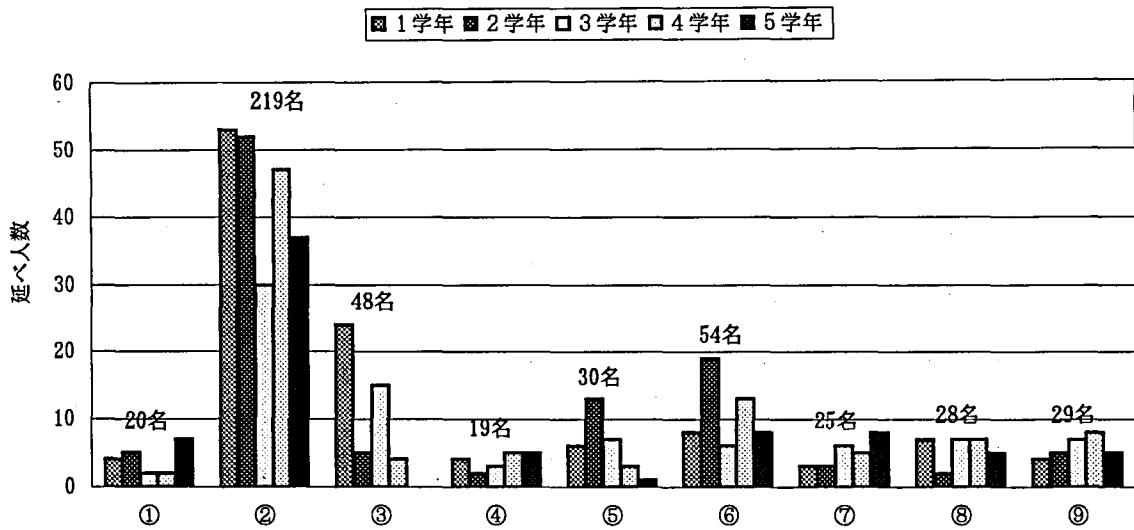


図10 『学園だより』第104号で興味のある記事

業式)、課外活動(部活動、プロコン)、担任紹介、工嶺祭、ボランティア、リサイクルなどを挙げている。

(4) その他の記事(各1名)

自分の子どもが登場、あるいは関連した記事を挙げる声が目立った。「今回のインターンシップにいった経験談のように、若い学生諸君の会社に対する新鮮な見方、考え方、あるいは感動が伝わってくるような記事は大変良いと思います」、「入学して最初に手にした『学園だより』。すみからすみまで読みました」、「印象に残ったのは、やはり息子の記事(写真のアップ)が載っていたときのものです。これは保護者達の本音です。学園だよりが届いて、まず目を通したときに、自分の子供が基準になると思うので、特に、写真など1人でも多くの学生を載せて頂けると嬉しく思います。寮にいと、どんな顔で過ごしているのか……と」

11. 以下のような区分で、どんな記事に特に関心をお持ちですか。(3つ以内に○印)

- ①学校の運営方針 ②学習・行事関係 ③課外活動
- ④寮生活関係 ⑤進路状況 ⑥教職員の活動・教育・研究
- ⑦先輩・後援会・同窓会 ⑧関係機関・周囲の紹介

図11に、寄せられた回答を学年ごとに示したが、「進路状況」と答えた保護者が断然突出しており、259名中212名が選択した。先に『学園だより』第104号で興味があった記事として「進路」を選んだ答へと、ほぼ同率の82%である。すでに進路が内定している5学年以外は、どの学年も大体同数である。保護者にとって、子どもの高専卒

業後の進路が、最大の関心事である。高専に子どもを入学させた動機を、明確に示している。

つぎに「学習・行事関係」をどの学年も2番目に挙げており、低学年ほど関心が高い。特に、1学年は63%が選んでいる。子供が学校生活に順応し、学習の成果をあげるよう願っている保護者の意識がうかがわれる。

3番目には「学校の運営方針」を選んでおり、教育方針、教育環境に注目している。やはり1学年が多いが、他の学年はほぼ同数である。

4番目に選択したのが「課外活動」である。部活動をしている学生の保護者が興味をもっており、豊かで楽しい学生生活をおくこと望む気持ちが現れている。4学年が低いのはやや意外である。

以上の4項目が学年に関係なく、広報誌としての『学園だより』に保護者が最も関心を持つ分野で、いずれも自分の子供が直接関わっている。

あとの分野はほぼ同数である。一見すると「寮生活関連」が意外に低かったが、通学生が選択しなかったため、見かけ上低くなっているに過ぎない。記述式回答に寄せられた多くの意見から、特に低学年では、関心が深いことがうかがえる。

上記以外にも、特に高学年の保護者が関心を持っている分野があった。それは、専門的な知識や技術を、広く人間社会のために活かすことのできる人材を育成する、高専本来の役割に関連した記事、あるいは、学内の情報を共有することを目指した記事である。これらは高専を十分知るうえで、欠かせない分野であり、学生、保護者を読者層として考慮したとき、特に学生をリードする観点から、『学園だより』にとって重要な分野である。

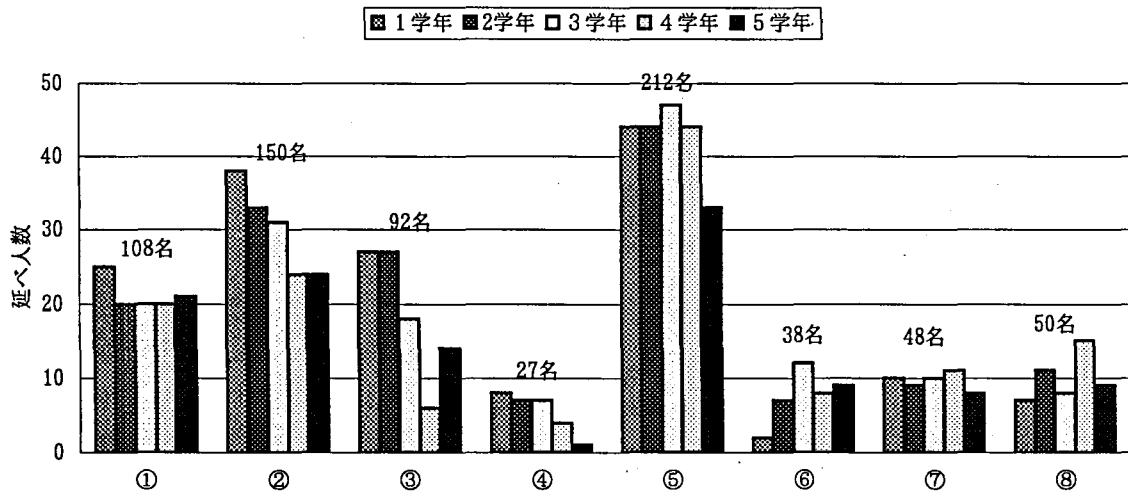


図11 「学園だより」で関心のある分野

12. 『学園だより』で具体的に取り上げて欲しい記事がありましたら、お書きください。

1学年 12件, 2学年 7件, 3学年 10件, 4学年 6件, 5学年 12件, 計 47件の回答があった。代表的な意見を記述する。

(1) 勉学, 資格 (9件)

- ・各学科でどんなことを学んでいるのか, それぞれの学科の特長 (2学年)
- ・各学科, 各学年で取得可能な資格紹介と取得のためのスケジュール (3学年)
- ・留年が多い. しない, させないため, 本人・親の日頃の心構え特集. (3学年)

(2) クラス, および教師紹介 (7件)

- ・各クラスの紹介など, あった方がよい. 担任の先生とも年1回会うだけでは, 人となりが分からない. (5学年) 各学年とも同意見多数
- ・教師の詳しい紹介と教育理念 (5学年)

(3) 課外活動, 部活 (5件)

- ・各部の活動報告, 日頃の様子など. (1学年) 同意見多数

(4) 寮関連 (6件)

- ・寮の行事, 普段の寮生活の様子 (1学年) 同様な意見多数
- ・子どもがなにも言わないので, 客観的な情報として取上げて欲しい. 写真も大歓迎. (3学年)

(5) 進路・先輩の活躍 (16件)

- ・進路状況の最新の情報 (3学年)
- ・最近, 卒業後の進路として大学編入が増えています. 編入後の学生の動向についても, 今後進路決定の参考資料として是非取り上げて下さい. (5学年)
- ・親としての一番の関心は卒業後のことです. 進学, 就職どちらも気になります. 第104号のように, 卒業生からのメッセージのような記事を, 是非お願いします. (3学年)

(6) その他

- ・専門用語 (ミニ知識的なもの) をシリーズで連載してほしい. (2学年)
- ・現実の社会問題に対し, 高専生はどの程度興味を持っているのか, あるいはどのように考えているのかを紹介する企画. (1学年)
- ・若いこれから日本を背負って立つ高専生が, 勉学, 学校, 会社, 日本, 世界についてどう考え, 悩み, 解決しようとしているのか. (2学年)

今後, 企画を立案するとき, 読者のニーズを知ることが極めて大切であり, 保護者の生の声には貴重な多くの示唆が含まれている。

13. 学校の様子を知るうえで、『学園だより』は役立っていますか。

- ①大いに役立つ ②役立つ ③あまり役に立たない ④全く役に立たない

全体で見ると, 「大いに役立つ」, 「役立つ」を含めると 98%に達し, 「あまり役に立たない」が 2%あった。図 12 をもとに, 学年別にみる。

1学年では「大いに役立つ」より, 「役立つ」の方が多く, また, 「あまり役に立たない」が 5%あるのが, 他学年と比べ際立っている。アンケート実施時期が入学5ヶ月後であり, 学校の様子が分からない状態で, まだ2回しか届いていない『学園だより』を読んでも, 全体像がつかめない様子うかがわれる。通学生, 寮生に差はないことも, 当然であろう。

2学年になると飛躍的に「大いに役立つ」が増加する。1年間の体験の裏付けがあり, 『学園だより』で学校の様子を再確認できるためであろう。

4, 5学年は高専生活を理解し, 『学園だより』に頼らなくても, 学校の様子, 子供が置かれている状況を把握しているので, 「大いに役立つ」が少なくなるのは妥当であろう。

1学年以外の学年では, 通学生より自宅外の方に役立っていると評価する声がやや多かった。

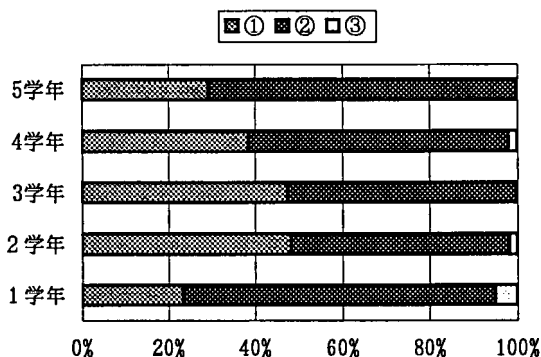


図 12 『学園だより』は役立っているか

14. 学園だよりの存続につき, お聞きます。

- ①是非続けてほしい ②続けてほしい ③どちらでもよい ④必要ない

図 13 をみると, 全回答の 6 割近くが「是非続けてほしい」を選び, 「続けてほしい」も含むと,

95%が存続を希望しており、圧倒的な支持があることを確認できた。一方、5学年で1割近くが、「どちらでもよい」と答えている。高専をほぼ知り尽くしており、また卒業を半年後に控えていることなどが影響しているのかもしれない。しかし、『学園だより』に対するコメントとして、5学年の保護者から

- ・本人の在学記念のために、5年間全部をファイルにしている。
- ・他の学生さんたちや、先輩方の活躍をみると、本人もそれに刺激を受けているのがわかります。
- ・『学園だより』もあと少しとなり、ちょっとさみしい気がする。(子供が)ほとんど帰ってこないの、これを読むたびに学校全体の様子が分かって、助かりました。5年間ありがとうございました。

などの声が多数寄せられている。なお、「必要ない」との回答は、全学をとおしてゼロであった。

住居別に分類すると、低学年ほど自宅外の保護者が強く継続を希望している。『学園だより』は本校と保護者を結ぶ大きな柱の1つである、と考えられる。

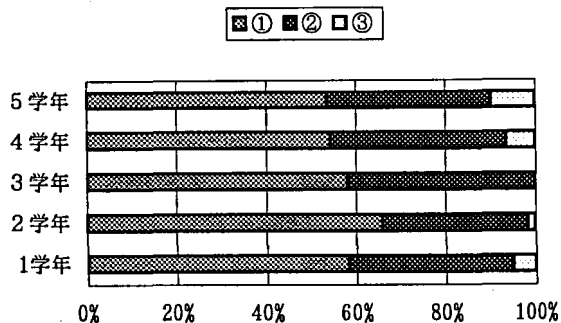


図13 「学園だより」の存続

15. 発行回数、時期について、ご意見があればお書きください。

全学年を平均すると、「現状でよい」22.4%、「増加」2.1%、「減少」1.2%、無回答68.0%となった。無回答は現状の年4回発行を是認しているとみなしても差し支えがないであろう。そこで、「現状でよい」と明記した回答を含めると、どの学年でも実に95%前後に達した。また発行時期に関しても、「今迄どおり長期休暇前が好都合」との回答が多かった。休暇に合わせ、年4回発行している編集委員会の方針が支持されていることを確認できた。

なお、増刊を希望する回答も、全体で8件あった。「予算の都合がつけば」、「大きな事件があった時など、表裏1枚でいいから発行を希望します」が代表的な意見である。また、減少は3件であったが、「編集委員会のご苦勞を思うと、最低2回はお願いします」などの意見も寄せられている。

16. 『学園だより』に関してのご意見、ご希望がありましたらお聞かせください。

1学年8件、2学年12件、3学年12件、4学年5件、5学年9件の計46件の回答があった。

『学園だより』への期待、提言、編集委員への激励・感謝に分け、代表的な声を以下に記述する。なお、配送に関する意見も7件あったが、賛否半ばしていた。質問6にまとめて記述している。

期待

- ・子供が1年生であるため、親として学校の様子は『学園だより』で知ることがとても大切だと思っています。近場ならば、ちょっとそこまで感覚でグラウンドの見学をしたり、散歩感覚でキャンパス周辺を散策したりと、行動範囲を広げられます。しかし、遠くにいればそうもいかず、表紙の風景から始まり子供たちの様子、先生の様子、学校の方針、すべて居ながらにして手に取るように読ませていただき、嬉しく思います。(1学年)
- ・地区の支部総会や、『学園だより』でしか、学校の情報を得ることができないので、重要な情報源となっています。(2学年)
- ・大学生の子供もいるのだが、何もかも自分でやらないと何もない、と言っている。もちろん『学園だより』も、卒業生のメッセージもない。聞くだけの講義にほとんど困り果てている。『学園だより』を読むと、色々な行事計画があり、飽きないように教えてくださっているのがよく分かる。これからもよろしくお願いします。(3学年)

提言、問題提起

- ・選んで入学したとはいえ、途中でやめていく学生がいることや、忙しい生活(授業の進み方が早い、休み時間が少ないなど)、また寮生と自宅通学生は生活の違いのため友人関係が希薄になったり、関心を払いあわず、孤立することはないか、精神的な面で満足しているのかなど、気になっています。そんな点、学生達はどのよ

うにしているのか、知ることはできるでしょうか。(1学年)

- ・学園内で対処に苦慮している点も、知らせてほしい。(2学年)
- ・優れた成果の発表は大変よいが、優れた成果を出し得ない者の顔が見えない不満がある。一年間の間にどんな形でもよいから、ほとんどの学生の意見や、顔が見える工夫が欲しい。(3学年)
- ・学生・親へのアンケートの実施と、その結果の公開など。(3学年)
- ・学生の感想や、先生方、先輩のコメントなどの欄は、もう少し“くだけた本音”も聞きたいといつも思います。少し違う角度で、真面目な部分とは別の記事があってもよいのでは。(5学年)

激励、感謝

- ・毎回楽しみにしています。これだけ内容の充実したものを編集、発行することはご苦労が多いことと思います。是非続けてください。(2学年)
- ・ご苦労の割に、読み捨てられやすい分野だと思います。しっかり読みますので、これからも頑張ってください。(3学年)
- ・下伊那に住んでおり、学校の様子がよくわからず、『学園だより』が楽しみでした。卒業まであとわずかになりました。本当にありがとうございました。(5学年)

広報誌としての『学園だより』には、第1報の編集方針で記述したように、教育・研究にかける本校の熱意を誌面に表現することで、学生のやる気を喚起し、保護者の学校に対する信頼感を助長する役割が、さらに、外部に対しては、本校の紹介とイメージアップにつながる効果が期待されている。その観点から、掲載する内容も、学校のプラス面を積極的に評価する姿勢となり、活躍した、あるいは目的を達成した学生が中心となりがちとなる。この点を了解し、『学園だより』に期待する声が、保護者からの回答には目立った。

それに対して、保護者と学校の連帯感を一層高めるためには、普段着の高専をとりあげ、目立たない学生の地道な努力も評価するよう、さらに、学校のマイナス面も知らせて欲しい、との提言もあった。

また、前述のように、『学園だより』を読んだ

感想として、大学と比較して、本校の教育に対する意欲を評価する声も寄せられた。『学園だより』の役割、さらには、教育機関としての高専の存続意義を明確に示唆している。長期的な展望に立って、本校の現状を考えると、保護者の立場からの貴重な提言である。

3. 今後のあり方

3-1 内容について

5年という幅広い年齢層からなる学生、保護者、教職員、さらに、中学生などの外部にも受け入れられる内容を作ることは、極めて難しいところでもある。このような状況下で本校の『学園だより』は徐々に洗練され、内容的にも密度の濃いものになってきた。広報誌としてお互いのコミュニケーションを図る基盤を提供し、かつ、本校で期待されている記録性に関してもその役割に十分応えてきている。

すなわち、学生の意見、活躍、学校の方針、教職員の話、さらに、卒業生をはじめとする外部の意見など様々な角度から、時代時代の話、情報を提供してきた。現段階では内容的に十分充実しており、紙面などの制約を考えるとよく作られていると理解できる。ここではあえて一考を要する、さらに、再度強調したいところを以下に掲げた。

(1) 広報誌である以上不特定多数に渡るため、どうしても内容的に学校に対するマイナスイメージと受け止められる部分は取り上げにくい。場合によっては少し先を見据えた視点から、赤裸々なマイナスイメージ、現在の問題点ももう少し取り上げる必要もある。

(2) 上記に関連して、ごく平凡な標準的な学生を取り上げ、学生の視点から見た日常生活、考え方、悩み事を積極的に掲載していく。

(3) 今までは、保護者の意見、学校に対する希望などを取り上げたことは皆無に等しい。保護者の記事がもう少しあってもよい。

(4) たとえば、各学科平等に記事を扱うといった制約からどうしても細切れ的で、皮相な内容になりがちである。この際あまり平等を意識せずに内容を重視していくようにする。

(5) できるだけマンネリにならないように意識し、かつ同様の記事を扱う場合にも切り口を変えるなど常に新鮮さを持たせる工夫が必要である。

なお、保護者が具体的にどんな内容を期待しているかは、前述のアンケート結果からほぼ把握することができた。また個別の意見、感想に関しても大いに参考になり、たとえば、第1報の編集方針で示したように学生の名前ができるだけ多く出るように配慮することは、まさに保護者も望んでいることである。

3-2 編集について

前報に示したとおり『学園だより』は年4回発行し、1回の発行には担当者会議の前からの準備を含めると約3ヶ月近くを要する。1回の発行には写真担当を除いて教官の4人が当たり、年2回担当で実質6ヶ月近く関わることになる。

編集の手順はマニュアル化されてきている。割り付け用紙もきちんとしたものがあり、また編集に当たっての名前の敬称、職名のつけ方、原稿段階、校正段階でのチェックポイントなどが申し合わせ事項としてまとめられている。このことは、編集委員が年度ごとにより変わり、初めてこの編集に携わる委員でも、ある程度統一的に進めることを可能とするためである。それにしても担当者は企画からはじまり割り付け、原稿依頼、原稿集めなど非常に多くの労力と時間を費やして、各号が発行されていることを強調したい。以下に編集に当たっての改善点などを述べる。

(1) 前報で述べたとおり、委員の人数は減少傾向にある。一方、各担当者は年2回担当し、上述のように企画、割り付け、原稿依頼、原稿集め、記事内容の確認、場合によってはワープロによるデータ整理、原稿打ちなど仕事量が多い。一人当たりの仕事量を軽減するためには委員の人数の増加が必要である。

(2) 前項に関連して、大学などでは、事務系職員が中心となって広報誌を発行している場合もあると聞く。『学園だより』の編集は写真を除いて教官のみで行ってきている。幸い次年度から「校内短信欄」に関しては、事務の方にも協力を得ることになった。しかし、各種大会の結果など記録性の強い部分は、もう少し事務系職員の協力を得たい。

(3) 外部への依頼記事は本校教職員に仲介の労をお願いすることが多くある。この場合企画の趣旨を理解し積極的に協力頂けるかどうかで、編集作業が上手くいくかどうか大きく影響する。

『学園だより』作りへの積極的な参加、協力をお

願いたい。

(4) 見出しの入れ方、字体、地紋、カラーの使い方、全体のレイアウトにより見やすさ、受ける印象が大幅に違ってくる。この点に関しては経験による熟練も影響し、他の仕事を軽減し『学園だより』を専属にできるスタッフがいるとよい。

(5) 現在の原稿はフロッピー入力してあっても、ほとんど印刷業者で同じ原稿を再入力する。このため、この段階での入力ミスが起り、校正で二度手間となっている。今後、フロッピー渡して、そのまま入力されることが望まれる。(将来は対応できることが予測される)

(6) 本校では多くの部署で、学校行事、催しに対して写真を撮っているが、これが一本化されて整理されていない。今後、写真の保管体制を作る必要がある。

アンケートにおいては保護者からの多くの発言があった。その中で編集が大変であり、その労をねぎらう言葉も頂いている。現実には企画・編集をはじめ広報誌作りも奥が深く、質の高い『学園だより』を作ることを目指しているが、様々な時間的制約の中で仕上げざるを得ない。

3-3 配布について

学生、保護者、教職員は言うまでもなく、関係各方面に配送しており、現在の主な配送先は県内の中学校、工業高校、市町村教育委員会ならびに他高専である。

ただ、実際には、たとえば中学校で、どの程度、あるいはどのように活用されているかが問題であろう。さらに配布先の拡大を考えるならば、本校の卒業生が就職する県内の主な企業などが挙げられる。

また、配布方法に関連して、保護者の中には「学生から渡してくれればよい」といった意見も一部にある。これは学生が過去にもきちんと保護者に渡していたとの証とみなせる。さらに、金銭的な節約面からくる発言もある。しかし、これらの声はまだ少数意見であることから、当面配送を継続したい。

記録性を重視することと関連して、幸い一部バックナンバーをそろえ図書館に保管されているが、学生などの目に触れることはない。今後は、この他に3部程度製本し学生に閲覧できる状態が望まれる。

3-4 その他

本校では、今年度から学校全体の広報を考えていくための広報委員会が設置された。『学園だより』はもちろん広報誌と位置づけているので、当然、その一翼を担うものである。しかし、対象としている読者層の中心はやはり学生、保護者、教職員にある。この観点からすると現在の『学園だより』は十分その使命を果たしている。今後、広報がますます学校にとって重要になり、また地域への開かれた学校として機能していく上でも、様々な情報の開示が望まれることであろう。

一方、現在では情報伝達にも、ホームページを始め各種メディアが現れてきている。したがって、広報全体に対しても見直しを行い、学校全体からみて、現在の『学園だより』のあり方が望ましいかどうかの検討も必要であろう。

4. あとがき

今回行ったアンケート結果から、具体的かつ定量的に、保護者がどのように『学園だより』を

受け止めているかをみる事ができた。全般的には、期待どおりの結果が出ていることを確認できた。配送に関しては、ほとんどの保護者が望んでおり、『学園だより』の内容・できればにもほぼ満足である、との回答が大勢を占めた。また、記述式回答の内容から、『学園だより』に対する保護者の期待の大きさが伝わってきた。『学園だより』が学校と保護者の間の大きな橋渡しになっていることが分かった。また、貴重な提言もあり、今後に生かしていきたい。

一方、『学園だより』のあり方については、保護者のアンケート結果が参考になるとはいえ、もう少し広い角度からみる必要がある。ここでは過去の経験を踏まえ、現在企画・編集している立場から分析を行い、問題点などを拾い紹介した。

最後に、『学園だより』の配送をはじめ様々な点でご協力頂いている学生課の皆様へ感謝申し上げます。とりわけ今回のアンケート調査にお骨折り頂いた学生係長神林敏氏、また回答をお寄せ頂いた保護者の方々に心よりお礼申し上げます。